

令和6年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立椿小学校		NO.		
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題 ○成果 ▲課題	今後の改善点	学校関係者評価
学力向上 × I C T 活用	1 授業改善 ・全国学力学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析による学習定着の確認 ・弱みの把握による授業改善、「授業力Up5」の活用 ・全教員が年間1回の研究授業の実施 ・聴きあうことから主体的に参加する学び合い授業の創造 ・子どもが自ら話し出す魅力ある学習課題(めあて)づくり 2 学力定着 ・既習事項の定着(学びなおし)につながる学習指導 ・算数科の授業開始時の全校で取組む「読み上げ計算」 ・椿タイム(補充学習)年5回 ・TT、複数配置による個別の授業支援 ・「家庭学習Up5」による学習環境改善と「自主学習」推進 ・日常的な家庭学習「学年目標時間達成率」80%以上 3 図書指導の充実 ・学校図書館アドバイザー、図書巡回指導員、図書委員会、図書ボランティアの連携と活用 ・「読書指導」+「ブックトーク」年12回、「お話宅配便」年14回 ・子ども主体による読書強化週間の取組 年2回 ・児童1人当たりの貸出冊数目標 年55冊 4 特別支援教育 ・通常学級での支援、・校内支援会議、個別の支援会議の設定 ・研修会への全職員参加 年1回 ・全職員でのかかわり(交換授業、教科担任制、TT) 5 ICT活用指導力の向上 ・ICT支援員との連携月2回 ・深い学びを生み出す効果的なICT活用 ・日常的なICT活用 ・実践的な研究会実施 年1回	1 ○全教員で自己採点し、問題を一問一問、丁寧に分析した ○成果と課題を共有し、弱みの克服のため具体的な取り組み方針を決定した ○各学級の子どもたちに応じた適切な学習指導を展開した ○6年全国学力学習状況調査、全国を国語、算数ともに上回る ○5年みえスタディ・チェック、三重県を国語、算数ともに上回る ○鈴教研研究発表会開催、市内に向けて本校の実践を発信し好評価を得た 2 ○椿タイム(補充学習)年5回 達成の見込み ▲D層への支援が進んでいない。人員不足で個別の支援ができていない ▲高学年では複線型授業を進めたが全体として研究が進んでいない ○児童アンケート勉強がよくわかる90.3% ▲家庭学習時間は増えず、格差が拡大している ○下校後の家庭での生活を見直し、学年目標時間達成率2学期に81%達成 3 ○ブックトーク・読書推進活動等は、全18回達成する見込み ▲「お話宅配便」年12回にとどまった ○子ども主体の図書館まつりなど、読書強化週間年2回は好評 貸出冊数は2学期すでに60冊を超えた。年度末には、70冊以上になる見込み 4 ○校内支援会議の適時開催、研修会を3学期に実施 ○空き時間の補助、記録ノート等、全職員で関わり、十分に情報共有した ○低中高で授業を交換、全職員で全校児童を見守る体制ができた 5 ○月2回来校するICT支援員を活用し、授業で活用の機会が増えた ○実践的な研究会は、年3回実施できた (Jamboardに代わるアプリ)研修会、ICT支援員による研修、オクリンクプラス研修)	1 今後、複線型授業の研修会を設定して、研究していく。 2 個別最適な学びをキーワードに、D層への支援を研究していく。 家庭学習は自主学習が浸透していないので、見本をたくさん紹介するなど工夫して粘り強く取り組んでいく。 3 お話宅配便については、適正な実施回数の検討をしていきたい。 4 ICTの技能は向上してはいるが、さらに今後は、教職員のプーチ研修等も行い、全教職員のスキルアップを図ってきたい。	・学力調査の結果は、日々の授業改善の良いアウトプットであると思う。 ・学力が、全国も県も上回ったのは、先生方の努力の結果でもある。次年度も続けてほしい。 ・学力が平均としては高い点数となっても、できる児童とできない児童との格差拡大も課題としてある。引き続き取り組みの必要があると思う。 ・鈴教研研究発表会は、先生方にとってはたいへんでしたが、大成功でした。お疲れ様。 ・研究発表会は、準備から大変だったと思う。本当にお疲れさまでした。 ・研究発表会開催校として、教職員の皆さんの一丸となつての取組の成果は、今年度は特筆すべきものがあつた。 ・椿タイムを継続してほしい。 ・5,6年の学力向上は、教員の皆さんの、成果と課題の共有や、弱みの克服のための具体的取組の成果だと思う。 ・児童アンケート勉強がよくわかる90.3%は、評価したいが、残りの9.7%の児童について、何がわからないのかを分析してほしい。 ・家庭学習の格差拡大の要因を分析することと、自主学習の浸透への対応をお願いしたい。 ・家庭での復習と読書は大切であるから、努力するよう指導を続けてほしい。 ・家庭学習は、保護者の責任でもある。PTAとも協力して保護者への働きかけを強化するとよい。 ・放課後のスケジュールに、週に何日も習い事を入れている現状では、家庭学習の時間確保は難しく、格差がでるのも納得できる。 ・ICTの活用は椿小は進んで対応していると感じる。日々デジタル分野も進化しているので固定化することなくシステムや内容もブラッシュアップし続けてもらえたらと思う。 ・ICT支援員等の活用、プーチ研修、スキルアップを評価したい。 ・ICT活用における、児童間の教育環境を保障してやってほしい。 ・大学共通テストで新教科「情報」が加わった。今後ますます重要な教科となっていくので、指導力強化をお願いしたい。 ・ICTは今後もっと必要性が増えるのでさらに強化してほしい。また、取り残される児童がいないようにしてほしい。
	6 学校生活についての満足度向上 ・「学校は楽しい」95%以上 ・欠席理由のあいまいな児童に対する家庭との連携 ・不登校0名(欠席30日以上) 7 いじめアンケートによるいじめの把握(年3回) ・組織的な対応と指導 いじめ案件100%解決 ・未然防止啓発活動の充実	6 ▲「学校は楽しい」92.3% 昨年より2～3%減少 ○欠席理由のあいまいな児童に対する家庭との連携、支援シートの活用 ▲不登校1名、不登校傾向児童5名 (病気が主原因、個別に丁寧に対応中) 7 ○いじめアンケートを3回実施し、組織的な対応と指導を行った ▲組織的な対応と指導は実施できた。 案件2件未解消(見守り中) 4件解決 経過観察中 ▲いじめを見ても何もできない、関わりたくない児童の存在がある ○道徳授業、いじめ防止強化月間、毎月のピンクシャツデーの実施	6 「学校は楽しい」と回答しなかった児童の原因を探る。 子どもの居場所づくりを意識しながら不登校対応継続。 7 来年度から人権教育を研究テーマにしていじめ0、いじめを許さない学校を目指す。	・不登校の原因を早くつかみ、運営協議会で報告があつた。いじめもその都度報告があつてよかった。 ・各種アンケートを通じて、不登校0名、いじめ案件100%解決を目指し、きめ細かい指導をお願いしたい。また、家庭との連携、支援シート活用、アンケートの度重なる実施、組織的な対応、関わりたくない子への指導をお願いしたい。 ・毎月のピンクシャツデーの実施は、いじめに対する意識を培うには、効果的だと思う。
地域連携	8 「未来応援人」をはじめ、地域や外部講師の積極的活用 ・各学年 年3回以上 合計18回以上 9 外国語学習の成果活用 ・低学年のEEタイム、外国文化に触れる出前授業 ・英語表現劇「椿ワールド」の取組 10チェックリストを活用した保護者啓発 ・「鈴峰中学校区家庭学習強化週間」の取組年3回 ・「学校アンケート」年2回 11登下校の安全・危機管理 ・校長による登校指導(ほぼ毎日)危険箇所点検(年1回) 子どもを守る家の確認(年1回) ・交通安全教室の実施(年1回) ・防災教育 避難訓練の実施(年3回) 12情報提供の充実 ・学校だより年間36号発行、学校ホームページ適宜更新 ・学校自己評価の提供と学校関係者評価の実施 ・満足度調査(児童、保護者)の結果提供 13地域ボランティアの効果的活用 ・椿タイム、授業・行事の支援 お話宅配便	8 ○体験活動は子どもの関心を広げ、関連教科への理解が深まることにつながった 各学年7回以上達成、合計55回以上活用 9 ○1年生と2年生はEEタイム、3～6年生は年35回の外国語活動実施 ○中国出身の方に来ていただき、異文化交流会を実施 ○椿ワールドを開催し、児童の英語でのコミュニケーション力を高めることができた 10○「鈴峰中学校区家庭学習強化週間」の取組年3回実施 ○「学校アンケート」年2回実施 11○登下校の安全・危機管理・校長による登校指導をほぼ毎日行つた ○危険箇所点検(年1回実施) 子どもを守る家の確認(年1回実施) ○交通安全教室の実施、自転車実技指導に取り組んだ ○防犯訓練の実施 低学年で連れ去り防止訓練実施 ○防災教育・避難訓練の実施 年3回、予定通り3月開催予定 12○学校だより年間36号以上発行、学校ホームページの適宜更新を実施見込み ○学校自己評価の提供と学校関係者評価の実施 ○満足度調査(児童、保護者)の結果を保護者・地域に提供 13○地域ボランティアの効果的活用 ○椿タイム 授業・行事の支援 お話宅配便	11来年度は、防災についてより深く地域と連携し、震災時の避難所開設の手順や、役割分担についての具体案を作りはじめていきたい。	・各学年7回以上のキャリア教育は、継続することによって、その体験活動への意欲・関心を深め、学びの場の拡大や学びの深化となっているので、高く評価したい。 ・読み書きだけでなく英語でのコミュニケーション力の重要性は大人になっても大きいと感じる。椿ワールドは児童の意識向上にもつながっており準備等ボランティアさんを含め教職員の方も負担が大きいと思うが、英語に触れることと、生徒間の協調性にもつながるので、継続してほしい。 ・椿ワールドでは、発表の声もよく通り、練習されていた。 ・椿ワールドでの学習成果発表で、異文化交流と外国語への子どもたちの一体化、親近感を感じさせられた。高く評価したい。 ・英語に対する抵抗感が薄らぎ物怖じしない子どもたちが年々増えているように思う。日頃からの意識した活動の積み重ねだと感じる。 ・すばらしい椿ワールドだった。招待してもらい感謝している。 ・校長による登下校指導は、雨の日も風の強い日も登校の見守りをしてもらい感謝している。地域ボランティアの方とのコミュニケーションができる機会にもなっているので、引き続きお願いしたい。 ・登校時の見守りは、多くの方の協力が見受けられた。 ・登校の様子で気がゆるんできた頃に何度か学校からの指導をお願いしてきた。大きな事故もなく1年を終えることができ安堵している。 ・毎日の登校指導ほか、交通安全教室、防犯訓練、防災教育、避難訓練で連携できた。 ・危険箇所、子どもを守る家を運営委員会でも把握したい。 ・学校だよりにより、学校の活動がよく分かった。 ・学校についての理解・協力に、地域を今後も取り込んでいってほしい。 ・ボランティアの高齢化が少し気になっている。
	14異年齢との交流 ・わくわくタイム(異年齢 縦割り班遊び)月2回 ・児童会主催による学校集会年6回 ・あいさつ運動 各月1回 ・非認知能力を育てる絵本の読み聞かせ、感想交流	14○異年齢との交流、わくわくタイム年16回予定 ○児童集会年6回達成 ○代表委員会によるあいさつ運動 毎週月曜日の朝、実行できた ▲非認知能力を育てる絵本の読み聞かせ、感想交流は未実施	14非認知能力を育てる絵本の読み聞かせを図書担当と連携して取り組んでいく。	・非認知能力を育てる絵本をできるだけたくさん購入してほしい。 ・異年齢との交流は「椿ワールド」での全校での発表会の場でも感じたが、低学年の子の意見、思いを高学年の子が汲み取るその姿勢からも日頃の全校生の一体感がうかがえた。 ・わくわくタイム 子ども間の触れ合いができる。
働き方改革	15定時退校日の設定(月2回) ・その日に退校できる職員の割合80% 休暇取得平均20日以上 16会議の効率化と時間短縮 ・打ち合わせや職員会議資料のデータ化 ・60分以内に終了する会議の割合70% ・超過勤務時間:1か月45時間以内、年360時間以内、1か月目標平均20時間 17コンプライアンス意識向上 ・会議毎にコンプライアンスの確認 ・コンプライアンス・ミーティングの実施(年1回以上)	15▲月2回の定時退校日を設定、その日に退校できる職員の割合66% ▲休暇取得平均12.3日(11月までのデータ) 16○打ち合わせや職員会議資料のデータ化100%達成 ▲60分以内に終了する会議の割合58%、 ○超過勤務時間1か月45時間、年360時間以内はほぼ達成 ▲1か月平均25.4時間 17○職員会議や打ち合わせがある毎に、コンプライアンスを確認した ○コンプライアンスミーティングを実施した	15管理職や職員間の声掛けで推進していく。 16会議の効率化をもっと意識させる。 ICTの活用で効率化を図る。	・そもそも休暇取得率、時間超過一か月平均の目標設定が高すぎるのではないかな。今年度の実績や人手、実情にそった適切な目標の再設定を来年度はしてはどうか。 ・成果が多く安心だが、先生方の健康も大切。 ・教員のなり手不足、現職教員の不足が叫ばれている中で働き方改革もなかなか進まないのではと察している。先生自身が1年間心身ともに健康に子どもたちと関わってもらえることを切望する。 ・会議の効率化で、先生の負担が大きくならないようにしてほしい。 ・コンプライアンスの確認、今後も継続してください。